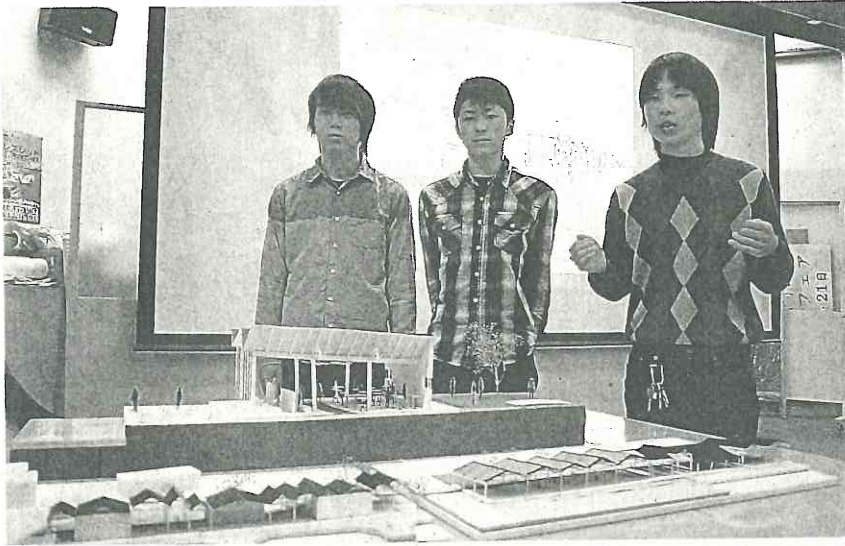


道の駅デザイン、子どもと遊具作り…

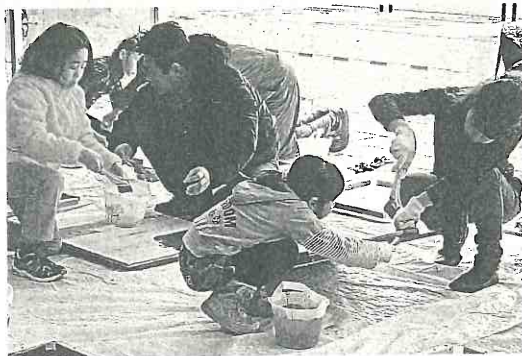
舞鶴高専生、地域課題解決へ

舞鶴工業高等専門学校（舞鶴市白屋）の学生たちが、地域が直面する少子高齢化や過疎化、観光集客など、さまざまな課題に地域との協働で取り組んでいる。地域に根ざす技術者への第一歩として奮闘する学生たち取材した。

（加藤華江）



①自転車がつなぐ地域をコンセプトに設計した「道の駅」の模型と、舞鶴工業高等専門学校のデザインコン部メンバーたち。舞鶴市下福井・舞鶴港とこれとセンタ―（②協力して木板にペンキを塗る親子ら（舞鶴市浜子育て交流施設あそびあむ）



子ども交流施設「あそびあむ」（同市浜）で2月末、

同高専学生や児童、市民グループらが集まり「大人と子どもが本気で遊ぶ」をテーマに企画が行われた。建設システム工学科5年守本希梨子さん（20）が市から受託、卒業研究「新遊具の提案・製作」として施設と一緒に取り組んだ。

大型遊具を作る過程も「遊び」。親子で「板を支えるから下を塗ろう」などと声をかけ、子どもたちは笑顔でペンキを塗った。ジャンクルシムのように部材を組み立て、6日に遊具が完成、子どもたちが登ったりくぐったり自由に遊ぶことができる。中西阿里所長は「専門知識から生まれるひらめきに驚かされた」。同学科5年上中匠さん（20）は空き店舗や空き地が目立つ東舞鶴の商店街の

技術者の視点でアイデア

活性化プランを立案した。店舗付き高齢者集合住宅を建設し、にぎわいを創出する。現地調査や聴き取りで商店街利用者が買いたい物だけでなく交流の場も求めていることが分かったという。

福井県から通学する上中さんは、これまで商店街に行く機会がなかった。「商店街はおしゃべりや散歩など活用法がたくさんある。お気に入りのお店も発見して面白かった」。研究を委託した市産業振興部の担当者には「結果だけ求めるのならコンサル会社に頼む。学生が地域に足を運ぶことが、にぎわいと地域の成長につながる」。

全国の高専学生が生活空間の提案で競う「デザインコンペティション」への出場に向けて活動する「デザインコン部」の4年松浦隼人さん、3年竹内正彦さん、1年谷年齊藤タクヤさん、1年谷口竜一さんは「地域活性化に資する道の駅デザイン」をテーマに舞鶴港とこれとセンター（同市下福井）が



拠点の計画を提案。「自転車がつなぐ地域」を掲げ、舞鶴湾を望む緑地に吹き抜ける屋根を設け、自転車愛好家や住民が集う広場やカフェを配置した。昨年11月に和歌山市で開かれたコンペ本選で入賞、3月2日に舞鶴市内で報告会を開き、関係者らに披露した。学生たちは「クルーズ船の観光客をとれとこれセンターまで誘導できる」「災害時の救援物資置き場にもなる」などと説明、関係者からも「自転車で舞鶴を巡ってもらうにはどんな工夫が必要か」などの質問が相次いだ。学生たちの取り組みは住民たちも刺激し、地域を活性化するきっかけを与えている。